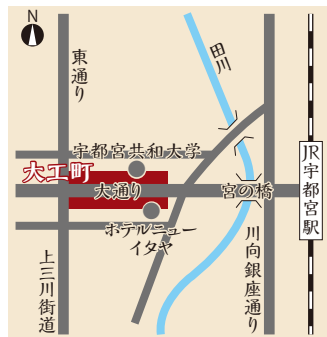




▲屋台を中心に集まる大工町の皆さん

◀昭和32年頃の大工町のまちなみ



宇都宮城を築く時、この付近に大工を住まわせたことから、大工町の名が付けられたといえます。江戸時代には穀物屋・干鰯屋・鍛冶屋・荒物屋など、いろいろな商人や職人が住んでいました。大工町には、問屋、銀行などが建ち並んでいましたが、交通事情の変化などで問屋は郊外へ移転しました。現在は、オフィスビルや、大学、病院が建ち並んでいます。また、二荒山神社との縁

現在では、住民も少なくなり、オフィスビルの空きも多くなってきましたが、固い絆の大工町をつないでいきたいと思えます。

そして、大工町では、住民のほか、各会社にも自治会に加入してもらっています。菊水祭の後には、お日待ち会という、江戸時代より続く町内あげての懇親会を毎年行っており、住民と会社の皆さんとの交流の場として、とても意義深いものになっています。

が深く、神祇三番町として銚と屋台を所有しています。銚も屋台も、第二次世界大戦の戦災で焼失してしまいました。昭和29年に、市役所の新築落成や市制60周年などと併せ、屋台を新しく作り現在に至っています。



だい くちよう 大工町 現在の大通り1丁目・2丁目辺り

古いまちの呼び名とこぼれ話を紹介します



大通り1丁目 野澤 秀熙さん

# はつらつ宮っこ

今、輝いている市民

世界に描く

華麗な技と味の軌跡

バーテンダー 宮崎 理彦さん



空中でボトルやシェーカーを投げたり回したりするパフォーマンス「フレアバーテンディング」。その技を全国の腕自慢が競う「第11回NBAフレアテンディング・バーテンドーコンペティション」で優勝したが、宇都宮で初めてフレアバーを開いた宮崎さんです。途中で諦めた時期もありましたが、やれることをやってみようと練習を重ねてつ

「1位を取るの初めてなのでうれしい」と笑顔で話します。カクテルの全国大会で賞を得るなどバーテンダーとしての腕も確かな宮崎さん。当初、フレアバーテンディングに対しては「落とす、

こぼす、まずい」とあまりいいイメージを持っていませんでしたが、雑誌で「フレアバーテンディングの第一人者」として紹介されていた知人の「落とさない、こぼさない、おいしい」パフォーマンスを見て、目からうろこが落ちたそうです。「宇都宮ではまだ誰もやっていないからやってみよう」と自己流で技を磨きました。カクテルのおいしさだけでなく、パフォーマンスへの驚きがプラスされ、カクテルに慣れた人も慣れていない人もさまざま人が喜んでくれることが、フレアバーテンディングの魅力だそうです。今後は、「フレアバーテンディングだけでなく、バーテンダーとしての腕を競う大会で日本代表の座をつかみ、世界一を目指したい」と強い意欲を見せる宮崎さん。さらなる高みに向けて今日も腕を振ります。